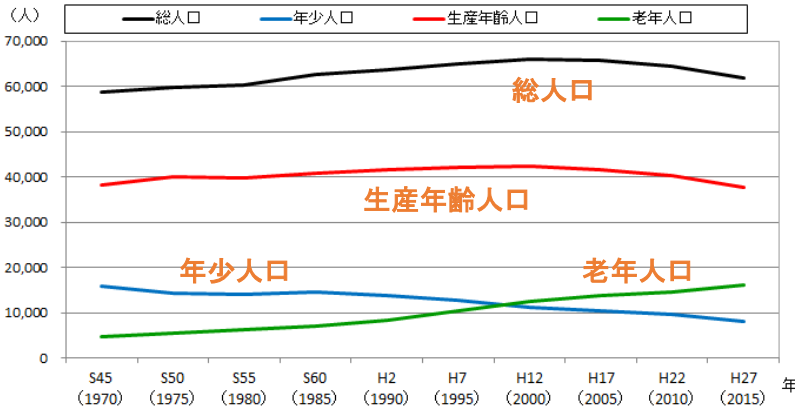


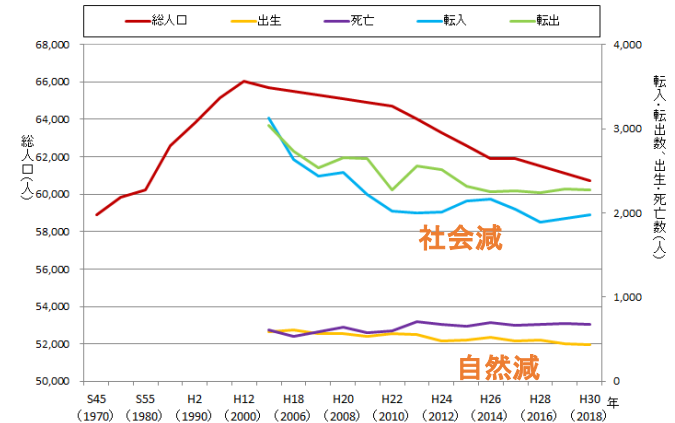
人口の現状

白河市の年齢3区分別人口構成の推移



- 総人口は、平成12(2000)年の66,048人(国勢調査)をピークに、減少傾向にある。
- 生産年齢人口(15~64歳)については、平成12(2000)年以降緩やかに減少し、年少人口(0~14歳)については、昭和55(1980)年以降減少が続く一方、老年人口(65歳以上)については、一貫して増加している。

総人口と自然増減・社会増減の推移



- 人口動態は、老年人口の増加による死亡数の増加と、若年世代人口の減少や合計特殊出生率の低下による出生数の減少により、死亡数が出生数を上回る自然減となっている。
- 社会動態は、転出数が転入数を上回り社会減となっている。他の世代に比べて、15~24歳の若者世代で転出数が転入数を大きく上回っており、若者の人口流出が社会減の大きな要因となっていると考えられる。

人口の将来展望

- 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の推計に準拠して算出した場合、本市の2040年の人口は48,000人程度となり、2060年には34,000人程度となることが予測される。
- 若者の人口流出の抑制、合計特殊出生率の向上などにより、人口減少を抑制し、将来にわたり持続可能な地域社会を維持していくことが必要である。



若者の就労・結婚・出産・子育ての希望の実現、他地域への人口流出の抑制、首都圏在住者の転入の促進等の各種施策に取り組むことで、2040年に52,000人程度、2060年に44,000人程度を維持する。

- ①人口移動について・・・現在(2019年)の社会増減△295人に対し、2025年に人口移動をゼロ(転入・転出が均衡)まで上昇させ、それ以降も均衡を維持する。
- ②合計特殊出生率について・・・2030年に1.87(白河市民の希望出生率※)、2040年に人口置換水準である2.07まで上昇させ、その後も同水準を維持する。

※希望出生率・・・(既婚者割合×夫婦の予定子ども数+未婚者割合×未婚者の結婚希望割合×理想の子ども数)×離別等効果

将来人口の見通し

